

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2004-43567 (P2004-43567A)
 【公開日】平成 16 年 2 月 12 日 (2004.2.12)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-006
 【出願番号】特願 2002-200876 (P2002-200876)
 【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 L 77/00

C 0 8 J 5/00

C 0 8 K 5/00

【F I】

C 0 8 L 77/00

C 0 8 J 5/00 C F G

C 0 8 K 5/00

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 7 月 8 日 (2005.7.8)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ポリアミド 6 6 単位 9 0 ~ 9 9 . 9 重量%とポリアミド 6 単位 0 . 1 ~ 1 0 重量%とからなり、かつ末端がモノカルボン酸あるいはモノアミンで 1 ~ 7 0 (ミリ当量 / K g) 封鎖されている共重合ポリアミド (A) 1 0 0 重量部に対して、ヒンダードフェノール類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも 1 つの有機系熱安定剤 (B) 0 . 0 1 ~ 1 重量部を含有することを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物。

【請求項 2】

ポリアミド 6 6 原料 9 0 ~ 9 9 . 9 重量%、およびポリアミド 6 原料 0 . 1 ~ 1 0 重量%からなるポリアミド原料 1 0 0 重量部に対し、モノカルボン酸あるいはモノアミン 0 . 0 0 7 ~ 0 . 4 重量%を配合して重縮合を行い、共重合ポリアミド (A) を得、該共重合ポリアミド 1 0 0 重量部に対してヒンダードフェノール類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも 1 つの有機系熱安定剤 (B) 0 . 0 1 ~ 1 重量部を含有させることを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物の製造方法。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の共重合ポリアミド樹脂組成物から得られることを特徴とする射出成形品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 7】

(1) ポリアミド 6 6 単位 9 0 ~ 9 9 . 9 重量%とポリアミド 6 単位 0 . 1 ~ 1 0 重量%とからなり、かつ末端がモノカルボン酸あるいはモノアミンで 1 ~ 7 0 (ミリ当量 / K g) 封鎖されている共重合ポリアミド 1 0 0 (A) 重量部に対して、ヒンダードフェノール

類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも1つの有機系熱安定剤(B)0.01~1重量部を含有することを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物、

(2) ポリアミド66原料90~99.9重量%、およびポリアミド6原料0.1~10重量%からなるポリアミド原料100重量部に対し、モノカルボン酸あるいはモノアミン0.007~0.4重量%を配合して重縮合を行い、共重合ポリアミド(A)を得、該共重合ポリアミド100重量部に対して、ヒンダードフェノール類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも1つの有機系熱安定剤(B)0.01~1重量部を含有させることを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物の製造方法、

(3) 上記(1)に記載の共重合ポリアミド樹脂組成物から得られることを特徴とする射出成形品、

である。以下、本発明について詳細に説明する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明におけるポリアミド6原料は - カプロラクタムあるいはそのオリゴマーである。ポリアミド6原料は共重合ポリアミド原料中0.1~10重量%であり、好ましくは0.5~5重量%、更に好ましくは0.5~3重量%である。本発明における末端封止剤は前記共重合ポリアミド原料中0.007~0.4重量%であり、好ましくは0.01~0.35重量%であり、更に好ましくは0.05~0.2重量%である。